

日本物理学会誌 Vol. 1, No. 1, 2023

無五劫の擦り切れ海砂利水魚の水行末 雲来末 風来末食う
寝る処に住む処やぶら小路の藪柑子パイポパイポ パイポの
シューリンガンシューリンガンのグーリンダイグーリンダイ
のポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助。

6. 原稿作成上の注意

専門用語以外は原則として常用漢字・新仮名づかいを用いる。術語について、日本語として十分定着している術語はそれに従う。そうでないと思われるものはカッコ内に原語を付記する。専門分野にしか通用しない略語には必ず説明をつけること。また、単位については原則として SI 単位を用いる。

物理量を表す記号・変数・物理量や番号を表す添字などはイタリックとする。数式中で、演算記号 $[\log, \ln, \sin, \exp(e), \lim, d]$ (微分), $\text{Re}, \text{Im}, \text{Tr}$ ・虚数単位 $[i, j]$ ・元素記号・単位・言葉の意味を表す添字は立体にする。文中に分数の式を挿入する場合には、スラッシュ (/) を用いて a/b , $\exp(t/r)$ のような表記法を用いる。二重添字, e の肩にのる字の添字などは避ける。

7. 校正者のつぶやき

「できる」「こと」「よう」は仮名で書いてほしい。助動詞および助詞も、仮名のほうが望ましい(…ない, …ようだ, …ぐらい, …だけ, …ほど)。付属語のように用いられるいわゆる補助助動詞も仮名で書くべきである(…していく, …しておく, …してくる)。ちなみに、「…ていただく」「…ください」は公用文でも仮名とすることになっているはずである。数値と単位の間には、半角スペースを空けること。ただし, $^{\circ}\text{C}$, % は例外。

8. 著作権

会誌に掲載された記事の著作権は日本物理学会に帰属する。転載等による記事の利用にあたっては、日本物理学会の承認を必要とする。ただし、別に定める基準を満たす場合には、その限りでない。

会誌に掲載された記事の全部または一部を他の出版物に転載し、翻訳し、あるいはその他の利用をしようとする者は、別に定める基準に従って日本物理学会の文書による承認を得、またその記事が会誌に掲載されたものであることを明記(出所明示)し、著作者の了解を得なければならない。

著作者が、会誌に掲載された記事の全部または一部を、改変することなく学術情報として著作者自身で利用する場合には、別に定める基準に従うものとする。

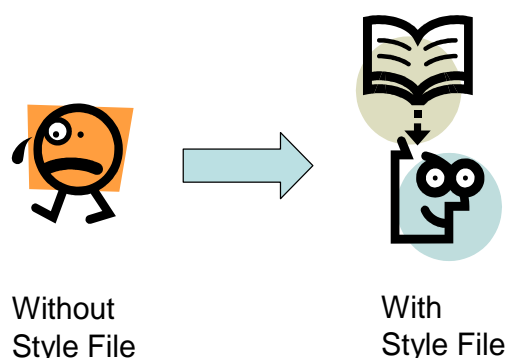


図1 スタイルファイル使用のイメージ。スタイルファイルが存在しない場合(左図)は仕事がなかなかはかどらず、非本質的なところで苦労するが、スタイルファイルがある場合(右図)は、文章の構成といった解説の本質的部分に集中することができる。

日本物理学会は、いかなる媒体や手段においても、著作物の全部または一部を公開する権利を有するものとする。

9. 図面の転載

日本物理学会誌では他の文献から図面を転載する場合には、投稿規定に基づき、原著者および出版者より転載許可を求めることになっている。転載される図は、最初に掲載された文献を引用すること(孫引きは不可)。

従って、記事中で他の著者の図を転載する際には、原図の著者および出版者より転載の許可を得ること。

また、自身の論文から図面を転載する場合にも出版者から許可を受ける必要があるので、注意すること。

10. おわりに

仕事をする上で、ワープロソフトの仕様などの非本質的な事由で苦労することは避けたいものである。本スタイルファイルが原稿を書くための労を省くことで原稿執筆の障壁を下げ、ひいては日本物理学会誌がより多くの読者を集めることを願う。¹⁻³⁾

参考文献

- 1) T. Butsuri and H. Butsuri, Phys. Rev. E **75**, 040102(R) (2007).
- 2) 物理太郎, 物理花子, 日本物理学会誌 **62**, 785 (2007).
- 3) T. Butsuri, H. Butsuri, and J. Butsuri, Phys. Rev. Lett. **82**, 080123 (2018).

物理太郎 (物理大学大学院理学研究科 tbutsurei@butsurei.ac.jp)

(2023年6月28日原稿受付)